



彩の国環境大学修了生の会

会報

No.87 2021 新年号

《彩・環境大学通信》

URL : <http://sai-syuryosei.eco.coocan.jp/>

2018年冬のエコ風景写真コンテスト

「鶴居村にて」



総務部 藤 徹氏撮影

□ 表紙	1	□ 冬の見学会『CESS展示館』報告	8
□ 新年挨拶(原会長)	2	□ トキタ種苗(株)見学会参加報告	9
□ 新年挨拶(松山センター長)	3	□ 書籍紹介	..10~11
□ 自己紹介	4	□ 総務部からの連絡	12
□ 冬のエコライフDAY案内	5	□ CESS案内	13
□ 連載:家庭のCO2削減策	...6~7	□ 会計、編集後記	14
第7回 2050年カーボンニュートラルCO2削減不要か?			

2021 年新年のご挨拶 会員の皆様へ

代表理事 会長 原 芳彦

彩の国環境大学修了生の皆さま、新年明けましておめでとうございます。日頃は会の運営、イベントにご協力いただき感謝申し上げます。また、県環境関連部署、環境科学国際センター、関係自治体の皆様には格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

2020年は忘れることができない年になりそうです。年初はいつもの通り、季節が変わりイベントも実施されていましたが、突然、あまりにも急にコロナウイルス感染症が世界中で蔓延し、日本でも緊急事態宣言が発令され外出や集会などが規制されました。緊急事態宣言こそ解除されましたが、この記事を書いている現在も収まる気配がなくむしろ第1波を超える状況が続いています。人の交流がグローバルで行われている状況の中での新ウイルスの拡散ですので、世界中の国が一致団結して対応しなければ収束しない状況です。世界の国の対応を見えますとリーダーの役割・指導力がいかに重要か良くわかります。科学的データの活用、システムの構築など判断力が求められます。人類の英知が試されているように思います。コロナウイルスへの対応で個々人の価値観、生活感が大きく変化しております。これまで当たり前のように都市や市街地に住む生活からみどり豊かな郊外や地方での生活が見直され新しい生き方が生まれています。江戸時代とは言いませんが、あの時代に各地方で固有の文化や伝統技術が育まれたような芽生えを感じます。ぜひ定着してほしいものです。私たちの会の活動も公共施設使用禁止や会合の自粛などで予定した活動がほぼ実施できない状況が続く、外部のイベントも中止が相次ぎ改めて活動の在り方を考える年になりました。今後は、SNSなど電子媒体の活用を積極的に進めていく必要を痛感しています。

SDGsの最終年まで10年となっていますが、見通しはどうでしょうか。いろいろな課題に最も関わる地球温暖化防止により早く世界が取組始めました。アメリカがパリ協定に復帰しそうですし、我が国もようやく再生エネルギーへの転換、ガソリン車から電気や水素ガス車への転換などを打ち出しておりますが、実現するには技術的な課題や国民の意識改革が重要です。毎年異常気象が続く、皆さんが地球温暖化のことを考え始めています。自分の生活を見直すことから参加していきましょう。毎日使う電気がどこで、どのようにしてつくられているのかを考えて行動することで変革を起こせます。個人でできることから始めましょう。

毎年、会員の確保が課題ですが、昨年、4名の新会員を迎えることができました。これからSNSの活用など新しい取組を進めるには現在の会員より1世代若い会員の活躍が大事です。昨年は多くの会員の方から従来になく様々なご提案、意見をいただきました。自由に活発な意見交換ができる環境を作っていきたいと考えています。このような時代にあって県民の皆様とどのように接していくことができるかという課題に取り組みたいと思います。これからも会の運営にご支援、ご協力を宜しく願います。

令和 3 年 年頭にあたって

埼玉県環境科学国際センター センター長 松山謙一

彩の国環境大学 修了生の会の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年も皆様にとってより良き年でありますよう、御祈念申し上げます。

昨年 4 月映えある初代センター長を拝命し全力で走り続け、無事新年を迎えることができました。これもひとえに皆様方の御協力の賜物と感謝申し上げ、僭越ですがセンターを代表して年頭のご挨拶をさせていただきます。

「激動」から「変革」へ

2020 年はまさに「激動」の年でした。COVID-19 と名付けられた新型コロナウイルスは瞬く間に社会を侵食し、コミュニケーションという人間の「力」を奪うに至りました。行動も制限され、晴々した気分にはなれない日々が続きます。「集う」ことの難しさから地域での活動もままならず、どうしても鬱積が溜まっています。

そんな中でも力強く活動している方々もたくさんいます。情報技術の活用などで新しいコミュニケーションツールを創り出し、適正な対策により安心を図りつつ「絆」を深めています。

今必要なのはそんな「変革」です。毎年「今年は変革の年」と言われ、数週経てば忘れられることが繰り返されてきました。しかし、「変わって」いく勇気が求められる時はまさしく今、なのだと思います。

プラスチック、SDGs、2050 カーボンニュートラル…

プラスチックが抱える様々な課題を解決すべく昨年 7 月にレジ袋が有料化されました。声高に削減が叫ばれても減らなかったレジ袋はあつという間に巷から姿を消しています。我が国では「規制」によってしか「変える」ことはできないのでしょうか。

その巷で今盛んに語られるのは SDGs です。ひと昔前は CO₂ でしたがいつの間にか SDGs に「変わられ」ています。グローバルスタンダードこそ「変わる」きっかけなのでしょう。

そしてついに昨年 10 月、我が国は 2050 年カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。「変わる」のに必要なのは上からの改革なのでしょう。

「変革」に向けて地域ができること

答えは Yes でもあり No でもあります。環境問題の解決には規制もグローバルスタンダードも国による目標宣言も必要なことです。けれども、それだけでは「変わりません」。大切なのは一人ひとりの行動を「変えていく」ことです。地域が「変わって」いかなければならないのです。

そして、そのためになくてはならないのは、そのきっかけを与えてくれる人たちです。皆様のような方々の活動がまさしくカギを握っているのです。

今年も直接的な接触を伴う従来のようなコミュニケーションは難しいままでしょう。地域活動にとって克服すべき壁は高いかもしれません。でもあきらめたらそこで試合は終わります。「変えていく」工夫をみんなで追求したい。ぜひ変革の一步をお願いします。

結びに本年も皆様にとって健康で充実した、そして明るく楽しい一年になることをお祈りしております。本年もよろしくお願いいたします。

★昭和 16(1941)年 8 月、埼玉県のとんぼの農家の 4 男として生を享け、戦争中・戦後は粗食(農産物、川魚、タニシ、イナゴ、卵、ヤギ乳等の地産地消)でしたが食べ物に特に苦労しませんでした。

キャサリン台風時は、多くの被害を受けましたが、幸い我が家は、床下浸水程度でした。

★学校は一クラスの小中学校一貫した授業で 9 年間同じ顔触れ、今でも、時折、同窓会をしています。中 3 の詰込み勉強で受験校の普通高校に何とか合格、高校での勉強が大変でした。部活は、将来、理系・企業研究職を考え化学部に所属しました。

★浪人は許されず、自宅から通える国公立大学だけを目指し、何とか二期校(化学専攻)へ入学。入学時は、学生運動に群集心理からデモ行進に参加。2 年生からは、授業に専念できましたが、社会勉強だと自認して、頻繁に麻雀、春・夏は鍋・釜・テント・寝袋を持ち合って 1 週間の山登り。

★卒論の関係からトイレタリ総合企業の研究職として入社。企業方針として、毎年、品質保証の一環で QC、TQC(M)、工業所有権、薬事法などを徹底的に教育されました。昭和 40 年代は公害問題対策の真ただ中でしたので、公害防止主任・水質・大気、危険物取扱い、エックス線作業主任者などの資格取得。一方、分析試験業務は地味で中々専門家が育たないことから、小生が思い切って担当。当時は、湿式分析(化学物質物性知ることが必須)から機器分析への過渡期、真空管から半導体へと、そこで、夜間の電子専門学校へ 2 年間通い卒業。50 歳まで薬事試験方法開発・経時試験、分析全般・マニュアル化、各種トラブルの分析的原因解明などを担当。機器分析技術修得。薬事有効成分と有害物などを業界・行政試験分析機関との共同調査研究活動へ参加、外郭団体の化粧品・部外品原料規格、衛生試験法等の作成・更新へ参加しながら技術・人脈交流ができました。58 歳までの 8 年間は生産本部の本社スタッフとして品質安全環境管理を任せられ、開発本部から提案されるモノの目付け役、部下の支援を得ながら現場を含めた生産本部全般の品質、薬事法 GMP、労働安全、環境等の管理に。また ISO9001、レスポンスルケア、ISO 14001 の導入を実施。全国の工場を巡回し、時には厳しく、時には優しく QC 大会・飲み会に付き合い人脈交流にも努力。

★58 歳の役職定年で、社長から(社)(現在公社)日本包装技術協会への勤務を推薦され研究技術職で入職。包装デザインは素人でしたが、化学屋と体験した多くの知識・技術が生きて人材育成にも貢献・信頼(?)も。72 歳までの 14 年間、包装の工業標準化(JIS、ISO)の開発・改正を中心に、業界内の懇話会、技術委員会の事務局・委員を務め、特に、経産省当局へ提案・承認を得て、10 年かけて欧州規格(EN)を参考に、包装と環境の国際標準(ISO)に、包装技術の専門家の支援を得ながら、世界各国と連携して TC122(包装)/SC4(包装と環境)を立上げ、6 件の国際規格(ISO 18601~18606)と 2 件の TR を開発導入し、JIS 化途中で退職。(自負してすいませんが、本件対応等で経済産業大臣受賞)

★地元貢献(環境基本計画策定提案、その後実践活動)だけでなく、上げた社会貢献ができないかと考えていたら、当時、副会長でした中山駿氏からの当会の紹介があり、実践課程を修了して 2013 年入会。高齢と体調が万全ではなく会への関りが薄くご迷惑をかけてすまないと思っていますが。すべては化学物質からとの関心から化学物質部会へ入会。包装の環境配慮状況について、包装の歴史と環境配慮包装に関する新規国際標準開発(JIS、ISO)について、地元の 10 年以上の環境ボランティア活動状況、容器包装リサイクル法の 10 年の歩み等を紹介。また生活循環資源部会へも入会。事業部対応で公開講演会「日本のエネルギー事情、原子力発電、高レベル放射性廃棄物問題など(仮称)」について」の講師紹介。昨年からは、体調を配慮して頂き編集部を担当。今後、体調を見ながらできる限りフリーな立場で、コロナ禍の早期終息を期待し、ボケ防止と生涯現役をモットーにして身近な SDGs に向けて努めたいと思っています。

「エコライフDAY2020（冬）」に参加のお願い

彩の国環境大学修了生の会 代表理事 会長 原 芳彦
地球温暖化防止部会 部会長 加藤 清



会員のみなさま、日頃より会の環境活動にご協力いただきありがとうございます。

今年も埼玉県環境部温暖化対策課より「エコライフDAY 2020 冬のライフスタイルキャンペーン」の実施協力依頼がありました。会としても参加・協力を行うことに致しましたので、奮ってご参加をお願いします。

家庭からの二酸化炭素排出量を削減するため、省エネ・省資源など環境に配慮した生活を1日実践することにより、地球温暖化防止のためのライフスタイルの定着に向けたきっかけづくりを行いましょう。

つきましては、下記実施要領を参照の上、同封の「エコライフDAY2020(冬)チェックシート」にご記入いただき担当の加藤または松島までご送付ください。本会報がEmail受信の方(メール会員)は、下記HPアドレスをご参照願います。

表紙 : <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0502/documents/2020ippan-t-o.pdf>

チェックシート : <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0502/documents/2020ippan-t-u.pdf>

■ 彩の国環境大学修了生の会エコライフDAY2020（冬）の実施要領

(1) 実施時期

2021年1月15日～2月15日のご都合の良い1日に実施して下さい。

(2) 報告の締切り

「エコライフDAYチェックシート」を2月18日(木)必着でお願いします。

(3) チェックシートの送付方法と宛先

下記①～③のいずれかの方法で加藤 清または松島 昇宛に送付してください。

① 郵送(加藤 清): 〒346-0105 久喜市菖蒲町新堀2654

② FAX(加藤 清): 0480-85-7466

③ E-mail(松島 昇): ammat2852n@yahoo.co.jp

* 後日E-mailで報告できるエクセルフォーマットをE-mailでご案内します。

(4) 埼玉県環境部温暖化対策課への報告方法について

チェックシートは集計結果を会としてまとめて埼玉県環境部温暖化対策課へ報告致します。

※この度、多くの方に温暖化危機について知って頂き、エコライフを実践して頂くため、チラシ『かけがえのない地球を未来の世代へ』を作成しましたので同封致します。メール会員の方は会HPの「地球温暖化防止部会」欄をご参照下さい。配布頂ける方は上記までご連絡下さい。郵送します。

2017 年3月中央環境審議会地球環境部会は長期低炭素ヴィジョンを出しました。

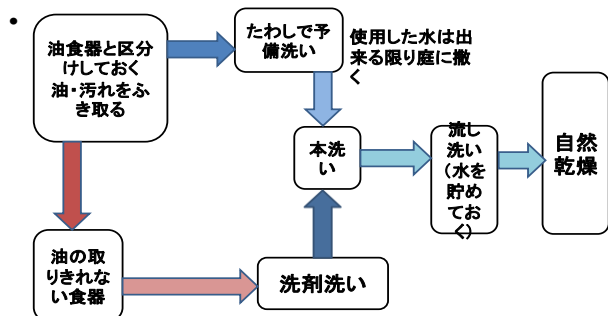
気候変動は科学的事実。パリ協定において今世紀後半までに世界全体で排出量実質ゼロに合意。我が国 は 2030 年度に 26%削減を達成し、2050 年までに 80%削減を目指す。2050 年 80%削減の低炭素社会を実現するためには大幅な社会変革が必要不可欠である。と述べ具体的には家庭部門 40%削減目標については各家庭の努力に負うところが大きく、内容は金銭的負担を伴い到底実現できない内容になっていました。

2020 年 8 月末安倍政権が終わり菅政権誕生、突如目玉政策として 2050 年までにカーボンニュートラルを打ち出しました。日本は世界からは毎年化石賞という不名誉な賞をもらう立場でありました。遅かりしとはいえ温暖化問題に真剣に取り組む姿勢を示したことは歓迎すべき出来事となりました。国が進めるカーボンニュートラルと個人が取り組む温暖化対策は違うことを理解しなければなりません。国はエネルギー供給を再生可能な風力・太陽光・地熱・バイオマス・原子力等に変換していく努力をします。カーボンニュートラルは、「CO2 排出を実質ゼロ」にすること。「CO2 排出を ZERO」することではありません。森林の吸収及び技術開発による CO2 の活用・閉じ込め等で排出吸収して「実質ゼロ」にすることです。生活の中でゴミ・食べ物・使う物等すべてカーボンフリー変わるのではなく、今まで通り CO2 削減のエコライフは続けなければなりません。

そこで、わたくしたちが取り組んできた CO2 削減の努力はさらに進化して続けることが求められています。キッチンから見た環境家計簿について日頃実践している一端と、また考えていることを書いてみました。

① 食器の洗浄

食器の洗浄工程



食器洗剤は極力少なく

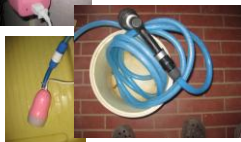
- 油食器は**ボロ布**でよく拭き取る
- 洗剤は**植物由来洗剤**使用 (600mlで1年半1日換算で1.09ml昨年実績)
- 水道の**使用量を少なく**する
- 排水を**汚さない**
- 化学物質**を流さない



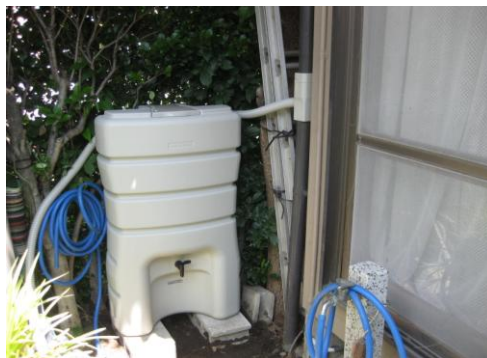
② ふろの残り湯の活用

風呂の残り湯の活用

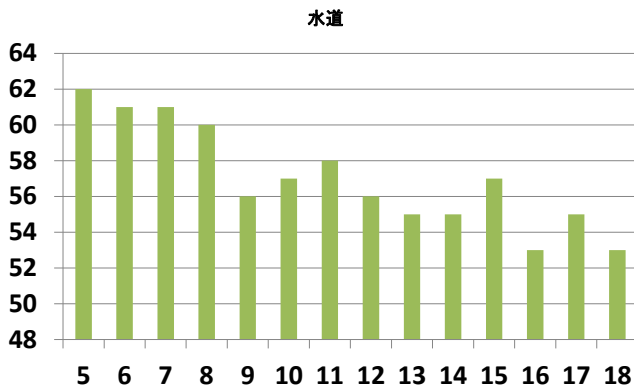
- 庭の花・植木に散水 (風呂用水中ポンプ使用)
- 畑にビニールタンクで運び、野菜に散水



③雨水タンクの設置



水道CO2排出量

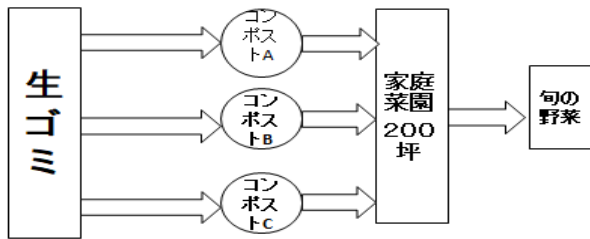


- 水道料金は安いので削減意欲が出ませんが工夫により効果実感。
- 洗車なども風呂の残り湯を活用して水道水を使用しない。
- 意識して使うことにより当初より 1/3に使用量を削減できる。左図

⑤生ごみの処

家庭菜園生ゴミと旬の野菜

- ・ 燃やせるゴミ(生ゴミ)の減量化



生ごみはコンポスト

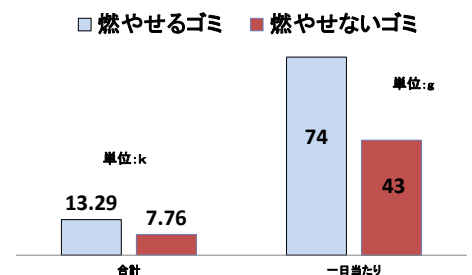


⑥収集ゴミ(環境家計簿には含まれない)

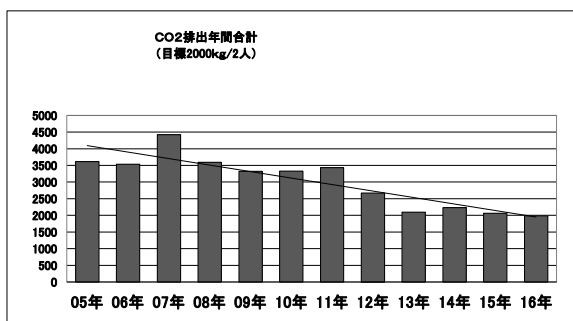
日本の家庭から排出されるごみの量は1日一人約1kgです。資源ごみを除いた我が家の排出ゴミ(燃やせるゴミ・燃やせないゴミ)6か月間集計しました。燃やせるゴミが13.3kg、燃やせないゴミが7.7kgで合計21kgでした。

6か月間に21kg1日当たり $21/180=0.12\text{kg}$ になりました。単純には比較できませんが、生ごみをコンポストで処理する為排出が抑えられたと考えられます。紙は名刺大の大きさのものは資源ごみの古紙として出します。

6か月のゴミの量と一日当たりの排出量



13年間のCO2排出量



以上泥臭いことですがキッチンでの省エネの一端を述べさせていただきましたが、今や世界の環境問題への流れは政治経済を巻き込み SDGs に表現されるようにCO2 排出削減・温暖化防止のみならず、世界中に人たちが生活全般にわたり文化的な最低限の営みが出来るようしなければならない。着る物・食べる物・使う物すべて、人にやさしく自然に優しい物を求め実践していかなければなりません。(左図夫婦二人で年間排出2トン達成) 小さなことでも「できることから始めよう」

『CESS 展示館見学』 報告

地球温暖化防止部会 松島 昇

11 月 23 日（月・祝日）に今年リニューアルした展示館の見学会を行い、8 名が参加しました。

1. エントランスホール：埼玉県魚「ムサシトミヨ」の水槽や子どもたちの「環境ポスター」などが展示されています。大型類人猿（オラウータンなど）保全計画のポスターもありましたが、有効な保全活動がなされなければ、40 年以内に絶滅が推測されるとのこと。
2. Zone1：視界を覆いつくす巨大な映像シアターがあり、世界で起きている自然破壊やプラスチック等の廃棄による生物被害などが映されています。絶滅危惧（レッドデータ）の動植物写真や地球温暖化関連の諸グラフ、レイチェル・カーソンや国木田独歩など著名人の環境名言集等を展示。
3. Zone2：私たちの身の回りのさまざまな衣食住・日用品について、環境負荷・軽減の情報をいろいろな手法で提示しています。「東京湾の砂浜に混在したマイクロプラスチック」の展示はその多さに驚きます。「ゴミタワー」では 1 家族の 1 年間の平均のごみのサンプルを立体展示しています。他に「エコハウス」のモデルや照明・TV の稼働にエネルギー転換させる「アスリートジム」など興味深いです。「輸入食料品のフードマイレージ」パネルでは、日本の輸送負荷の多さが分かります。
4. Zone3：埼玉の水環境・大気環境関連の展示や生態園に生息する野鳥や昆虫のはく製などがあります。

個人でじっくり観られるのも啓発になるとと思いますし、見学会として一般の方々に観ていただくのもよい体験学習になるとと思います。今後も有効利用を考えたいと思います。

ご参考に展示館のパンフレットを同封します。会報が Email 受信の方は下記 URL をご参照下さい。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/cess/shisetsu/cess-tenjikan.html>



事業部「トキタ種苗（株）大利根研究農場オープンデーへの見学会参加」

2020 年度の見学会は 11 月 19 日（木）コロナ禍第 3 波の真ただ中での開催と成ったが、主催者のトキタ種苗（株）の新型コロナウイルス感染防止対策として、会場は野外だがマスク着用、手指消毒、検温の実施、ソーシャルディスタンス、参加者全員の「利用者名簿」作成等の県のイベント開催方針遵守は勿論だが下記 2 点も実施し、県関係者もしっかり対応だと評価確認し実施しました

①Web での事前登録と時間帯別指定（見学時間は 1 時間以内）入場チケットナンバー NO リスク管理

＊個人別入場チケット「QR コード付き NO 参加者は A4 サイズ紙を各自プリントアウト持参」

②会場への交通手段：主催者手配のバス便（栗橋駅⇔会場）と車参加者用駐車場を会場近くに確保

●トキタ種苗（株）：創業 1917 年の老舗 100 年企業で埼玉県さいたま市に本社を構えミニトマトをはじめ野菜や花の種を生産販売。新品種の開発やイタリア野菜の普及に精力的に取り組んでいる種苗メーカーです。本場のイタリアを始めインド、アメリカなど海外にも拠点があります。ミニトマト商品化で大成功して、国内シェア 80%を占めています。

●大利根研究農場：埼玉県のかぐり市に位置しており、ガラス温室や実験棟などがある大きな研究拠点です。ここでは毎年、新品種のお披露目を含め、無料セミナーで栽培方法を教えてもらったり、実際に栽培しているハウスの中を見学したり、各エリアに常駐している担当者に栽培方法などを相談することができます。但し、例年開催の無料セミナー等はコロナ禍で中止へ

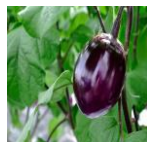
●大利根研究農場オープンデー：2020 年度は 11 月 19 日（木）と 20 日（金）栽培指導から試食までイタリア野菜やトマト、ハウレンソウ、ネギ等おなじみの野菜、味にこだわりの野菜を見る！知る！食べる！買う！ことが無料で見学できるが、コロナ禍で食事・試食は急遽、禁止に。

●見学コース概要：農場見学と野菜や種苗の現地販売

開催時期に合わせ露地栽培されている様々な野菜や温室での珍しい野菜類の栽培状況を指導員からも説明も得て見学・散策出来ます。コロナ禍で標準見学所要時間は 1 時間 max に絞り込み
・集合（会場入口 10：40）～入場チェック～見学（10：50～12：10 自由散策）～農場内温室 2 棟～露地栽培畑地～野菜等直販売コーナー～解散（会場出口 12：15）

■見学会を終えて

- 1）コロナ禍第 3 波の真ただ中での開催だったが、天気にも恵まれ、懸念された主催者の感染防止対応もきちんとしており社員対応も良く、参加者からも良かったと好評でした
- 2）トキタ種苗だけでなく全国（北海道～四国・九州）の同業者や農業従事者が協力参加しており、JA だけでなく日本の農業関係者のしっかりしたネットワークの絆を感じた。
- 3）研究農場だけ有って、珍しく見た目も美しい色々な種類の野菜が栽培展示され、特にミニトマト系はバラのアーケードの様な見事な見せる展示、露地栽培の野菜もこのタイミングに合わせたのかどれも、新鮮で瑞々しく、見事な日本の農地風景（野菜畑）が印象的でした。
- 4）参加者は直前に体調不良等で 4 人が・・7 人での見学会に成りましたが、思った以上に農場雰囲気・内容、特にポイントヶ所に多くの説明員が親切丁寧に専門的に、分かり易く、土壌～農機具まで説明して頂き、有り難く有意義で、とても勉強に成りました。



「データでわかる 2030年 地球のすがた」 (日経プレミアシリーズ) 著者 夫馬 賢治
SDGsの専門家が世界の危機について分析！ 20.8.27 日本経済新聞出版より 文責 藤

コロナ、温暖化等々に対して、データで浮かぶ10年後の世界危機を描写している書である。

人間の力でコントロールする事の難しい地球規模のリスク(コロナ・異常気象・海洋汚染・食料危機等)が拡大している。激しい変化を生む「メガトレンド」は、私たちがどこへ運ぼうとしているのか？

機関投資家が関心のあるテーマ・・・「気候変動」「農業」「森林」「水産」「水」「感染症」「パワーシフト」「労働・人権」の8分野について、問題の所在を捉えられている。

最近、グローバル企業が積極的にサステナブル経営を推進し始めている。SDGsやEGS取組む動き。本書の特徴は、「データに語らせる」というスタイル。「データを基に世界を正しく認識する習慣を身に付ける」という考え方に沿っている。

第1章 顕在化した気候変動の猛威

たかが気温が2℃上がる程度でしょ。と言う認識に警告！→「世界のリアル」について、以下に記述。

- ・世界で相次ぐ異常気象
- ・異常気象気温上昇が止まらない
- ・深刻化する自然災害と異常気象
- ・気温上昇と海面上昇の恐怖
- ・損害保険会社の経営リスク
- ・対策に乗り出した大手企業

著者が重視するポイントは、災害対策の意義付けである。BCP(事業継続計画)が重要である。

第2章 迫りくる食糧危機の実態

- ・過去50年間、食料危機が起きなかった理由
- ・食料需要はまだまだ伸び続ける
- ・食糧難を想定した国際的なシミュレーション会議
- ・気候変動がもたらす食料生産量の低下
- ・食料自給率と社会リスク
- ・第2次食料困り込み時代の幕開け
- ・遺伝子組み換え作物の「いま」

第3章 消える森林と食品・小売企業への影響

- ・森林破壊の4大要因ー大豆・牛肉・パーム油・木材
- ・森林破壊は気候変動を悪化させる
- ・チョコレートやコーヒーも森林破壊を引き起こす
- ・肉食から草食へのシフトは避けられないのか
- ・「紙や割り箸の使用禁止」では解決できない

第4章 食卓から魚が消える日

- ・飽和状態を迎えた漁業
- ・漁獲量が頭打ちになった原因は資源量の低下
- ・資源量をさらに悪化させる要因

- ・プラスチックのリサイクルは進んでいるのか
- ・養殖にも不安要素あり
- ・水産関連事業者は自身で事業を守るしかない

第5章 水をめぐる社会紛争

- ・2040年には幅広い地域で水ストレスを抱える
- ・バーチャルウォーターという真の危機
- ・すでに始まっている水をめぐる社会紛争
- ・期待高まる淡水化と必要なソリューション

第6章 感染症の未来

- ・そもそも、感染症とは何か
- ・感染症の「危険度」をどう見るのか
- ・WHOが指定した対策優先感染症
- ・感染症の今後

シベリアの永久凍土やチベット高原の氷河で、未知のウイルスが発見されている。今まさに正念場だ！

第7章 世界のパワーシフト

- ・人口が急減する日本と欧州。急増するアジア・アフリカ
- ・1人あたりGDPの成長で大きな差
- ・大きくシフトする中間層の所在地

衰退する先進国、急伸する開発途上国。中国の今後は？

第8章 サプライチェーンのグローバル化と人権問題

- ・国連が想定した企業と人権の関係
- ・児童労働対応も進化している
- ・今後日本で現代奴隷が出てくる可能性は高い

第9章 メガトレンドの理解度が勝敗を決する時代へ

「集合行為論」では、大集団になると1人が手を抜いた所で、全体に影響がないので、皆が手を抜き当初の目的は達成出来なくなる。

著者紹介：ニューラルのCEO、サステナビリティ経営やESG投資に関するコンサルティングやアドバイザリー業務を展開。ニュースサイト「Sustainable Japan」編集長を務める。国内外での講演多数、著書多数あり。



<総務部からの連絡>

2020 年 12 月末 会員数 82 人

明けましておめでとうございます。

本年も当会の活動にご協力、ご支援よろしくお願い申し上げます。

1. 今後の行事予定について

- a. エコライフ DAY2020（冬）への参加依頼 アンケート用紙など別途配信
(地球温暖化防止部会)
- b. SDGs エコフォーラム in 埼玉 日時：1 月 30 日(土)10 時～ 会場：市民会館うらわ
会場参加と、Zoom 参加あり、会員が分科会の運営に参加しています。
- c. 浦和コミセン祭り 今年度は新型コロナ禍のため中止
- d. 桜木公民館文化祭 今年度は新型コロナ禍のため中止
- e. With YOU さいたまフェスティバル 日時：2 月 6 日・7 日 会としての参加を取り止め、
自由参加とします。
- f. 彩の国環境大学修了生フォローアップ研修会 日時：1 月 23 日(土)午後、鈴木部会長が
講演を行います。CESS ホームページから、参加申し込みが必要です。

2. 報告事項

- a. 自然観察会 日時：11 月 14 日(県民の日)、CESS 生態園にて、午前・午後開催し、各 20～22 名
の一般参加がありました。(自然環境・教育部会)
- b. 2020 年度見学会 日時：11 月 19 日、トキタ種苗(株)大根研究農場(事業部)
- c. 冬の見学会 日時：11 月 23 日、CESS リニューアルされた展示館の見学(地球温暖化防止部会)
- d. 環境大学 8 月 29 日開講式～11 月 23 日閉講式、「修了生の会」への入会活動を行い、4 名の
新入会員がありました。

3. 2020 年度の総会について

日時の予定：2021 年 5 月 15 日(土)、開催の詳細内容については、後日報告します。

4. お願い

- ① 今年度の例会の開催については、新型コロナ禍の影響で、開催が決まっていません。
- ② 修了生の会の計画により実施する講演会やイベントは、ホームページでの会員への PR を行っています。特に、一般の方にも公開している行事は会としても注力していますので、会員の積極的な支援が必要で、その一つがまず参加することです。是非、ご都合をつけて参加をお願いします。
- ③ 一日でも早く、新型コロナ禍が治まり、通常通りの活動が出来る様になる事を祈念します。

以上



環境科学国際センターからのお知らせ

ー詳しくはホームページをご覧くださいー

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、イベント内容やスケジュールが変更又は中止になる場合もありますのでご了承ください

1 / 23 令和2年度 彩の国環境大学修了者 (土) フォローアップ講座

彩の国環境大学の修了者を対象に、地域での環境保全活動や環境学習活動のリーダーとしての更なる資質の向上に資することを目的に開催します。詳しくはホームページをご覧ください。



1 / 24 サイエンスショー (日) マイナス196度の世界!

この夏、開催できなかった当センター研究員による大人気の「サイエンスショー マイナス196度の世界!」を開催します。詳しくはホームページをご覧ください。

2 / 8 令和2年度 (月) 埼玉県環境科学国際センター講演会

※今年度は「オンラインで開催」します

環境のコレカラ～CESS誕生20年、そして未来へ～をテーマに基調講演を行うほか、当センター研究員が日頃の研究活動の成果や事例について発表します。申込方法など、詳しくはホームページをご覧ください。



SNSで情報発信中!

環境科学国際センター(CESS)を、もっともっと皆さんに知ってもらい、YouTube無料動画「CESSチャンネル」「facebook」でも情報発信をしています。フォローお待ちしております!



CESSチャンネル



インスタも
始めました



フェイスブック

お知らせ

2020 年度分会費納入のお願い

会計担当 福田・黒田

いつも本会の事業にご支援とご協力を賜り、誠に有難うございます。

今年度は、多くの会員様から早い時期に会費を納入頂けました。おかげさまで会計事務は円滑に実施でき感謝致しております。

これからお支払いの会員様につきましては、年度始めの総会資料に同封(メールで総会資料をお受け取りの方には別送)の振込用紙にてお振込をお願いいたします。

振込用紙にご住所・お名前・会員番号のご記入をお忘れなきようご注意ください。会費は正会員・賛助会員ともに年 3000 円です。(途中から入会の方は別途ご案内します)。

なお、振り込み用紙を紛失された場合は、下記①または②のどちらかの方法で振込みをお願いいたします。(振り込み手数料は自己負担となります)。

※送付の振込用紙はゆうちょ銀行振替口座ですが、①②の振込先口座はゆうちょ銀行普通口座となりますので口座番号は異なります。

1 ゆうちょ銀行からのお振込み

記号:10350 普通口座 口座番号:88324291

加入者名: 彩の国環境大学 修了生の会

(郵便局備え付けの振込用紙、ゆうちょ銀行のキャッシュカード、窓口からお振込みの際、上記の振込先(口座番号及び加入者名)をご指定下さい。)

2 郵便局以外他の金融機関から振り込みの場合(ネットバンキング可能です)

口座支店番号:〇三八 口座番号:8832429

加入者名: 彩の国環境大学 修了生の会

.....

表紙解説

平成 31 年厳冬の 1 月末に、日本画家の同級生のお誘いで、丹頂鶴を見るために、友人 6 人で、北海道根釧原野の鶴居村に、鶴見の弾丸旅行に行きました。鳴き声と寒さが印象的でした。

総務部 藤 徹

.....

編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年は温暖化に加えコロナが蔓延し、現在も収束のめどが立っていません。いままで経験したことのない事態です。しかし人類は過去に幾多の危機を乗り越えてきました。今回も解決していくと信じています。

会報の充実のため、皆様からの投稿を随時受け付けております。また編集部の励みとなりますので、ご意見、ご提案もどしどしお願いいたします。

編集部一同